



# 気ままに理科

12月になると、生き物の活動が鈍くなります。多くの植物は、葉を落したり、枯れたりします。それは、気温が下がって、成長が止まるからです。そんな中、数は少ないですが、冬に葉をのびし、花を咲かせる植物もあります。



先日、西友に行くと、店の前にきれいな植物が並んでいました。それでは、問題です!! 右の植物は何という名前でしょう?

正解は、…「ポインセチア」です。「ポインセチア」と言えば、「赤い花」が有名ですが、赤く色づく部分は実は花ではありません。それは「苞」と言われる部分で、実際の花は赤い苞の中心にある黄色い小さな部分です。また、メキシコが原産で、寒さに弱く、温室で栽培しなければいけません。みなさん、どうでしたか? 今回の問題はちょっと難しかったかな!? 写真を見て、すぐに「ポインセチア」だとわかった人は、少ないのではないのでしょうか? ましてや、赤いところが花ではないことや、温室で育てないといけないということまで知っている人は、ほとんどいないと思います。

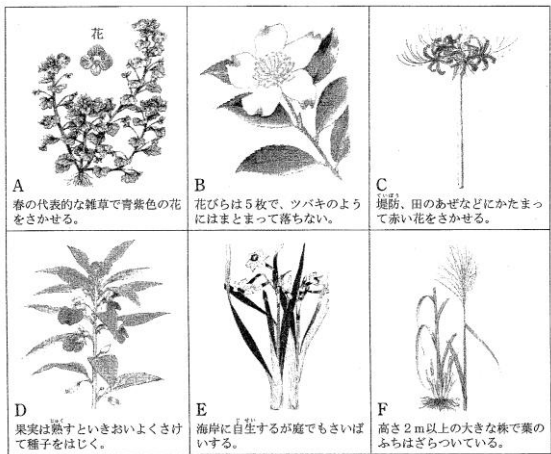
誰もが見たことのある「ポインセチア」ですが、意外と知らないことが多いことに気がきます。それは、他の多くの植物でも同じではないでしょうか。

私も、正直なところ、植物について、今までそんなに興味を持っていませんでした。だから、そんなに詳しくはありません。ただ、塾の講師として理科を教えるようになり、「植物を知ること」が、受験にはすごく大切なことだと感じました。特に、中学受験では、それが多くの学校で出題される重要単元の一つです。身近な植物を知っていると解ける問題が多くあり驚きました。例えば、椋山中学の入学試験では、毎年、1番の問題で、「植物の写真やスケッチを見て、その植物の名前を答えなさい」といった問題が出されています。どんな問題でしょうか!? 実際に問題された入試問題にチャレンジしてみましょう!

## 〈問題〉

次のA~Fの植物のスケッチを見て、問いに答えなさい。これらの植物は東海地方で身近に見られる植物です。

(1) 右の図のA~Fの植物の名前を答えなさい。



(平成20年度 椋山女学園中学校 入学試験問題 理科から一部改定)

正解は、「A: オオイヌノフグリ、B: サザンカ、C: ヒガンバナ、D: ホウセンカ、E: スイセン、F: ススキ」でした。どうでしたか? 過去には、スギナ(「つくし」として有名)や、エノコログサ(「ねこじゃらし」として有名)などが出題されたこともあります。

どれも身近な植物です。絶対に見たことがあるはずなのに、「名前は何?」って聞かれると…う〜ん…なかなか答えられません。じゃあ、ひたすら覚えるしかないのか!?…最後は、そうするしかありません。ただ、それは、とても根気のいる作業です。なぜなら、身近な植物はたくさんあるからです。テキストに載っているものを、やっとのことでなんとか覚えたのに、入試問題にはそれとは違う植物が出てきた…なんてことも考えられます。

普段から生活の中で、植物に触れる機会を多く作ることが大切です。そうすれば、植物のことが自然に頭に入ってきます。

今まで見てきた受験生の中に、スタンプや冒険教室の卒業生がいました。小さい頃から大自然と触れてきた経験が、授業の中で、すごく活かされている場面を何度も見てきました。

今、事務室で私の隣の席には、スタンプの先生が座っています。その机の上には、植物の標本図鑑が置かれています。子供たちが、いろいろなところで採ってきた植物を標本にし、名前を調べて、その特徴を自分たちでまとめて本にしたものです。中身を見せてもらいました。すごいです! そういうことを普段から体験しているからこそ、机上の勉強をする前から植物の知識を持っていて、その知識を活かすこともできるのだと改めて感じました。ぜひ、みなさんもやってみましょう! (平野)

# TSUZUKIのTSUBUYAKI

私がカナダにいた時の話。

語学学校のクラスメイトの一人に、Jose (ホセ) というメキシコ人がいました。彼は弁護士で、私と同じ日に語学学校に入学しました。ある日、彼のステイ先でホームパーティをするということで、学校のみんなで集まりました。そのパーティで酔っ払ったホセがかけ続けた曲があります。ポップ・マリーの“three little birds”です。そのポップ・マリーの“three little birds”という曲の中にこんなフレーズがあります。

“Every little thing’s gonna be alright.”

どういう意味でしょう?



「gonna」ってなんだ??

“gonna”は未来形を表します。中学校では、「be going to V原」と習います。「～するつもりだ」という意味です。“going to”を力を抜いてはやく発音すると「ガナ」となります。ネイティブたちはしゃべるとき、圧倒的に“gonna”を使います。ちなみに「will V原」も未来形として習います。「be gonna V原」とは少しニュアンスが違います。

例えば、下の会話の中の( )で使うのはどちらでしょう?

A: “Did you finish your homework?” B: “No. I can’t finish it today.”

A: “Then I ( ) help you.” B: “Thanks.”

答え: will

ではこの場合は?

A: “I ( ) go to the baseball game next Sunday. I have the ticket.”

B: “That’s great!”

答え: am going to

“will”はその場ですると決めたことに、“gonna”はもともとすると決めていたとか、そうなるに決まっていることに対して使うと考えると分かりやすいです。

その他にもネイティブたちが発音するとき、くっつけて発音するものがあります。「want to V原」= “wanna”「～したい」という意味です。“I wanna go home.”「家にかえりたい。」と使います。「have got to V原」= “have gotta”「～しなければならない」という意味になります。中学で習う「have to V原」と同じ意味です。“I’ve gotta go.”「もう行かなきゃ。」なんて使います。

ということで、“Every little thing’s gonna be alright.”は、「すべてうまくいくから。」という意味なんです。みなさんもこの歌を聞いてみてください。You tubeにありますよ。ゆっくりな曲なので、歌詞が聞き取り易いです。リスニングのトレーニングにどうぞ。

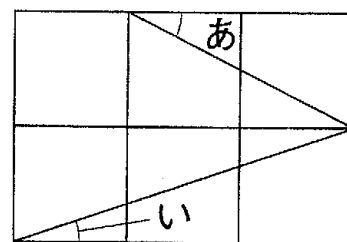
(都築)

## クイズのコーナー

### 今回の問題

【問題】□にあてはまる数を答えなさい。

下の図は、方眼紙に2本の直線をひいたものです。角あど角いの大きさの和は□度です。



### 前回の解答

